

受験番号	UM
------	----

令和8年度 山梨大学医学部看護学科 一般選抜前期日程問題用紙

小論文 I

【問】次の文章を読み、やさしさとは何かについて、作者の論述を踏まえ、あなたの考えを600字以内で述べなさい。

やさしいひとが好きだ。やさしくされるとうれしい。だが、とびきりやさしいひとは、なんだかちょっと怖い。並外れたやさしさは、どこかおそろしい。それはなぜなんだろう。

(略) ハンカチと財布がぎりぎり入るかどうかわからないくらいのサイズのバッグ。それを、屈強なひとが手に下げている。持ってほしいと頼まれたのかもしれない。だが、もし「持ってあげるよ」と声をかけたのならば、バッグの持ち主は驚いただろう。感動さえしたかもしれない。なんてやさしいのだろうと。

「でもさ」と、街でそんなカップルを見かけたとき、友だちが言った。「バッグわざわざ持ってくれるひとって、あの小さなバッグ以上の重さのものは、何一つ担ってくれなそうだよね」。偏見である。だが、ちょっとわかってしまった。軽い、小さなバッグ。羽根のような軽さ。

やさしくすることは、体力を使う。やさしいとは、いたわる、思いやる、愛する、心を届ける、心配する、そのすべてを煮込んでそれぞれの境目がなくなったような態度である。そこには迷いがある。逡巡がある。躊躇がある。わかりにくさがある。時に発揮されず、隠されることもある。誰にも気づかれずに、どこかへしまい込まれ、そのまま忘却されることもある。

それは目の前の他者を前提にしているからだ。その他者に自分が働きかけることによって、どうなってしまうのか、想像するからだ。だからこそ、とんでもなくやさしいことを、平気でするひとはこわい。その気軽さ、強引さがおそろしい。そこに他者はいない。他者がいないと、迷いが生まれぬ。やさしさが生まれぬ。

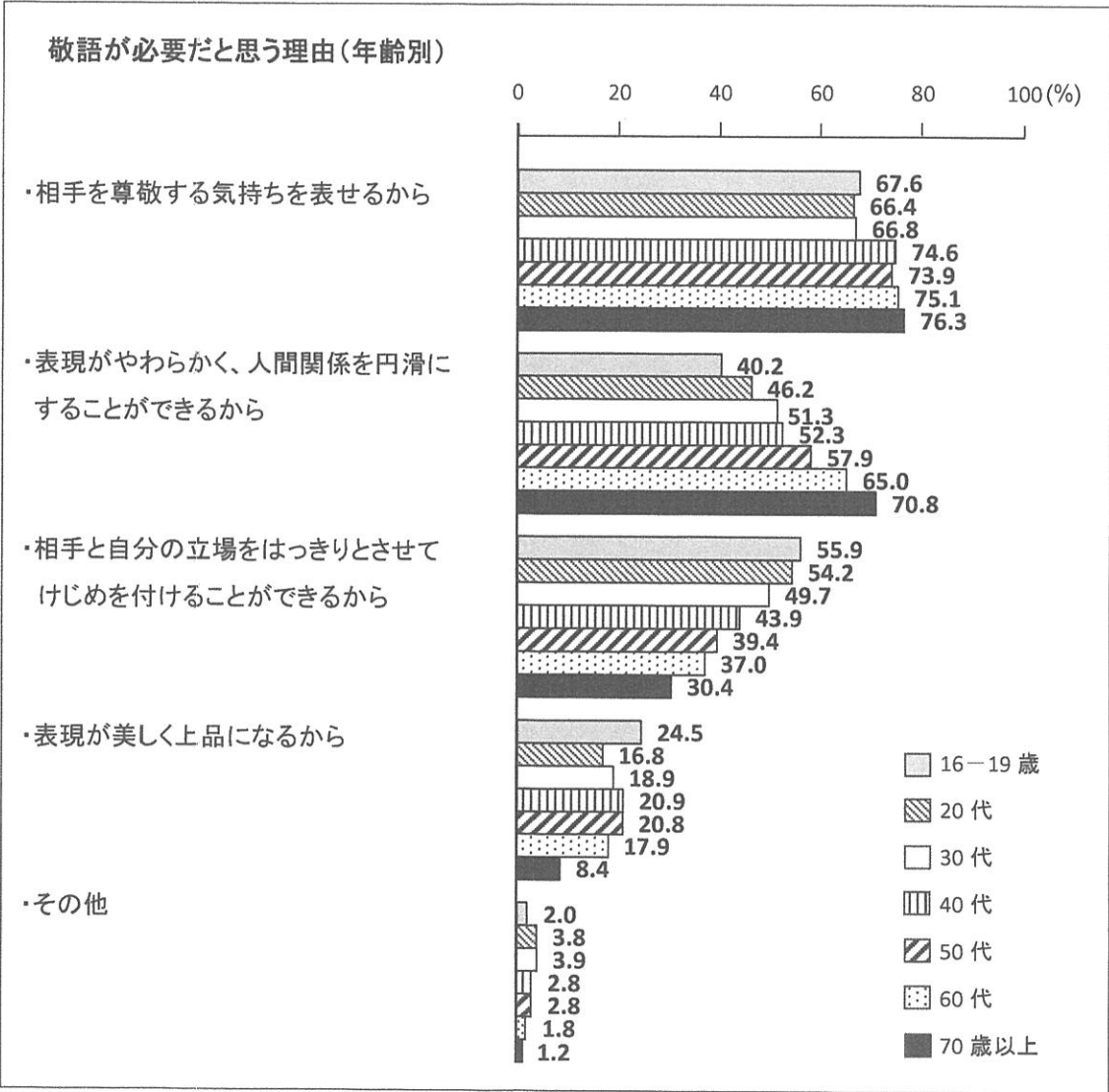
やさしさほどわかりにくいものはない。わかりやすく出現するやさしさは疑わしい。他者を置いてきぼりにして発揮されるやさしさは、やさしさではない。それは目の前の他者に問いかけたり、考えたり、迷ったりして、つくられていくものだ。どちらかが一方向的に見せつける何かは、親切ではあってもやさしさではないかもしれない。

出典：永井玲衣『さみしくてごめん』大和書房（2025年）より抜粋

令和8年度 山梨大学医学部看護学科 一般選抜前期日程問題用紙

小論文Ⅱ

【問】図は、文化庁が全国16歳以上の6,000人を対象に実施した令和6年度「国語に関する世論調査」の結果の一部です。「あなたは、今後とも敬語は必要だと思いますか。(一つ回答)」の質問に、「必要だと思う」「ある程度必要だと思う」と回答した人が、「敬語が必要だと思うのはどのような理由からでしょうか。(二つまで回答)」に回答した結果です。この図から読みとった回答の特徴と、その特徴となる理由や背景についてのあなたの考えを400字以内で記述しなさい。



出典：令和6年度「国語に関する世論調査」の結果の概要（文化庁） 問6付問1を基に作図。
https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/pdf/94274201_02.pdf
 (2026年1月15日情報取得)

